大バンクーバー圏の地域公園システムの分析と評価

養 茂 寿 太 郎*

Analysis and Evaluation on the Regional Park System of Greater Vancouver Regional District

Toshitaro MINOMO

摘要: 公園及び緑地システムの計画は、レクリエーション計画論と緑地帯論を併存し、時には独立して展開されたきたが、前者は市民の価値意識を踏まえ、後者は都市の物的環境問題を背景とし意味を持ってきた。つまり公園緑地システムの計画は都市抜きには語れないし、その具体は計画の主体に潜む意識と客体である地域の状況をふまえてはじめて策定されることになる。本研究はこの基本認識から、公園緑地システムの形成手法に関する知識の体系を確立する目的で発想された。本報では、GVRDが所管するバンクーバー都市圏地域の地域公園システムの評価を日本の公園計画の実情を意識して試み、我が国の公園緑地計画体系におけるシステム構築の方法についての提案を行なう。

はじめに

既に100年以上の歴史を数える公園緑地システムは、その計画方針をレクリエーション計画論や緑地保全論を軸として展開されてきた。アメリカ合衆国の都市計画の重要な柱として発生し、全米の都市でつぎつぎと展開したパークシステムが前世紀の後半から末にかけて先行し、イギリスのE. ハワードの田園都市論に基づく緑地計画論が今世紀の初頭からこれに追従したと言える。周知のように初期のパークシステムつまり公園系統は、イギリス風景式の公園計画やレクリエーション計画中心であったが、都市が広域的に拡大するようになった頃の大ボストン計画ではパークシステムの名の下に緑地保全論をも含んだ系統の計画がなされている。日本でも昭和7(1932)年の東京緑地計画では、同様の考え、つまりレクリエーション計画論と緑地帯論を併存した計画が積極的に検討された。東京緑地計画の内容については既に色々と紹介され考察されているところであるが、¹⁾ この計画では都市公園と自然公園の共存があった。しかし昭和31年に都市公園法が制定施行され、翌32年に自然公園法が国立公園法の全面改訂によって制定施行されるに及び、都市公園の計画と自然公園の計画は棲み分けを強くすることになり、そればかりか公園緑地システムは、緑地帯論の必要性を唱えつつもその実現がないままに、個別の公園計画の総合化だけが主題となって、現在に至っている。

本論は、既往事例の分析と評価を研究の方法として、カナダのバンクーバー市をとりまく都市圏地域で1967年から計画と整備が開始され、すでに25年の歴史を歩んだ

「大バンクーバー地域公園システム」を分析の対象とし、その評価を日本の公園計画改訂の視点を持って、わが国の公園計画体系における構造上の問題点を指摘し、今後のあり方を考察する。

1. 研究の目的と課題ならびに対象

わが国の公園緑地の計画体系は、都市計画法の第7条にある「整備、開発又は保全の方針」を受けての『緑のマスタープランの策定』が通達されることによって、従来の都市公園法に基づく営造物の都市公園の計画だけではなく、その枠を超えて大局的に、しかも全国の都市で計画されるようになった。しかしこれが超長期の計画であるにもかかわらず、そこには既成市街地である都心地域を中心としたところが多く、近郊へそして郊外へと広がる地域空間的ヒエラルキーへの対応が見えない。そこで、もっと広域計画として公園緑地の計画を捉え都市の発展に応じた公園計画を進めるべきと考える。そうした時、シティ又はマニシパル・パークシステムとリージョナル・パークシステム、そしてステート又はプロビシヤル・パークシステムの3つの体系をもつアメリカ、カナダの都市地域を核とした公園緑地計画には高い関心が寄せられる。ここでは特にリージョナル・パークシステムの内容を調査し、システム計画の意義を考えてみたい。筆者はすでにシティ・パークシステムとリージョナル・パークシステムとの有機的係が都市の発展段階を見込んだ公園計画の体系として極めて有効であることをミネアポリスの事例を基に紹介し論じている。²⁾ また田代は、サンフランシスコ都市圏のイーストベイ・リージョナル

*東京農業大学農学部造園学科

パークシステムを管理運営の仕組から考察するため、その内容を詳細に紹介している。³⁾

そこで本研究の目的と課題の具体を示すと、バンクーバー市域を対象としたシティ・パークシステムとの対応を見ながら、バンクーバー市域を含み、その後背地一帯を対象地域として計画整備されているリージョナル・パークシステムの特性を明らかにし、日本の公園緑地計画の改良を展望することにある。そのためには、リージョナル・パークシステム（以下、本論では地域公園システムという）を構成している圏域の構造と構成要素としてのリージョナル・パーク（地域公園という）の形態的特徴の分析、そしてその地域公園の利用と管理運営の実態と仕組に関する分析が課題となる。

なお大バンクーバー地域公園システムは、カナダではトロント大都市圏パークシステム（The Metropolitan Tront Parks System）⁴⁾と並ぶものであり、分析の対象として十分と考えられる。

2. バンクーバー市と大バンクーバー圏パークシステムの概要

1) バンクーバー市のマニシヤル・パークシステム；バンクーバー市はトロント、オタワの両市に次ぐ人口約42万人のカナダ第3の都市であるが、市内には1990年現在で162の公園があり、その総面積は1248.03haである。この水準は市域面積に対し約15%、市民一人当たり29.7㎡で、その配置の形態は分散型配置であり、一つの公園の規模は平均5haである。そしてこの公園を管理運営しているのが、Board of Park and Recreationで、市の行政機構上は、一般の【課 Department】組織とは別に独立している。バンクーバー市で【Board】の組織形態を採っているのは、公園レクリエーションと図書館 Library Board それに警察 Police Boardである。この公園レクリエーション局は設立当時は公園局の名で発足し、当初はイギリス風景式の公園づくりを役割の中心としていたが、1902年に遊び場 Play Field 計画の考え方が公園計画の大事な役割として登場し、その後に公園レクリエーション行政として展開し今日に至っている。その歴史は本市最大で世界的に有名な公園であるスタンレーパークの誕生に関係して1888年にBoardが公式に創設されたからで、既に100年を数えた。⁵⁾

2) GVRDと地域公園システム；さて、そのバンクーバー市の郊外を含む大都市圏人口は約150万人であり、日本の都市圏と比較するとそれ程大きなものではないが、これはブリティッシュ・コロンビア州全人口の約半分に当たる。しかし、その面積は27万ヘクタールと広大である。その人口150万、面積27万haの大都市圏を対象にした行政組織が、21の自治体を構成母体とするGVRD（Greater Vancouver Regional District）である。その運

営は構成自治体の首長と議長を構成メンバーとしていて、これらで理事会を組織している。GVRDの管轄業務は、水道事業、大気汚染規制、広域医療・福祉、労働職安、下水・ごみ処理、広域住宅政策、土壌汚染防止、そして関連する事項の調査・計画業務、これに公園行政を加えた9つの内容である。これら9つのGVRD業務の中で地域公園システムを管轄するのが公園行政で、それは他と比較して大きな比重を占める機能である。

3) 地域公園システムの歴史と背景；この地域公園システムの誕生の切っ掛けは、1966年に策定された『ローワー・メインランド地域の公園計画』の報告書である。⁶⁾ この計画では、現在のGVRD区域内に22カ所の地域公園 Regional Park 候補地を提案したのに加えて、現在の圏域の東側に当るフレーザー川を溯ること120km上流にあるホープ（Hope）市にかけての現GVRD区域外にも7カ所の候補地を選定している。その計画が基礎となって整備が実施に移されることになり、1967年にバンクーバー・フレーザー公園区が正式に誕生し、フレーザーバラード、デュニアロッチ、セントラルフレーザーバレー、フレーザーチームの4つの地域区が発足した。そのような計画が策定されたのは1965年にブリティッシュコロンビア州政府が地域公園法 Regional Park Act に基づいて地域公園機関の設立を奨励したからである。計画から実施への展開を見ると、最初は土地を確保することから始まり、つぎに施設整備に移りそして現在のレクリエーションプログラムの提供、さらにはさまざまな世代とグループのためのイベントの開催へと進展してきた。また計画行政としては、発足10年後の1975年に大バンクーバー圏の公園局として1966年以降の経過を総括し、約20年を経過した1982年と1984年の2度にわたって公園委員会としてセミナーを開催して将来を展望し、現行の新しい方針が確立されている。

3. 地域公園の形態的特徴の分析

1) 地域公園の規模；地域公園システムを構成している地域公園の現況総面積は、8,848haである。その公園数は16で、そのうち最も広い面積を有するのは4,687haのLYNN HEADWATERS REGIONAL PARKであり、最小規模はIONA BEACH REGIONAL PARKの30haである。その他は、500～1000haが3公園、200～500haが5公園、100～200haが3公園、100ha以下が3公園である。後述の通りGVRDは一つの地域公園の標準規模を60ha以上としているが、現存する公園の内、この条件に達していないのは2つの公園である。また表-1に示した公園区域の立地と土地特性の記述にも読み取れるように、ほとんどの公園が水系に依存した公園であるところにシステムとしての特徴がある。

2) 地域公園のタイプ；GVRDでは、圏域に整備すべ

表－１ 地域公園の面積及び土地特性一覧

公園名	面積 (ha)	公園区域の立地と土地特性
① ALDERGROVE LAKE	250	人工湖のある多目的公園
② BELCARRA	658	9kmの海岸線がある多目的公園
③ BOUNDARY BAY	39	干潟を中心とした海浜公園
④ BURNABY LAKE	300	湖沼のある都市内自然公園
⑤ CAMPBELL VALLEY	535	渓谷を中心とした自然公園
⑥ CAPILANO RIVER	160	水源地一帯の河川公園
⑦ CRIPPEN	260	ボーエン島にある河川公園
⑧ DEAS ISLAND	71	フレザ-川の中洲の河川公園
⑨ DERBY REACH	190	フレザ-川左岸の釣の河川公園
⑩ IONA BEACH	30	フレザ-川河口突堤の海浜公園
⑪ KANAKA CREEK	403	渓谷と滝のある河川公園
⑫ LYNN HEADWATERS	4,687	自然味豊かな山岳公園
⑬ MATSQUI TRAIL	86	帯状のフレザ-川河川公園
⑭ MINNEKHADA	175	ツ-ダ-林の自然公園
⑮ PACIFIC SPIRIT	763	UBCキャンパス周りの多目的公園
⑯ TYNEHEAD	260	散策に適した特殊公園
合 計	8,848	

面積はGVRD's Regional Park Outdoor Recreation System.
(GVRD(1991)) による。

き地域公園を6つのタイプとしている。その6種は、自然公園 Nature Parks, 河川公園 Stream and Riverside Parks, 多目的公園 Multiple Purpose Parks, 特殊公園 Special Purpose Parks, 海浜公園 Ocean Beach Parks, 山岳公園 Mountain Parks である。自然公園は地域の植物と動物の保全に立脚した計画の下で、活動ゾーンとしての利用区は生態的土地分析によって設定され、利用管理には季節によってアクセスを制限する区域が設定される。河川公園は河川の水質を保全する目的と釣というレクリエーションの場を提供することを目的とし、加えてその形状から帯状の遊歩道のあ

る公園として他の公園との系統化を図るものである。多目的公園は、静的レクリエーションから動的レクリエーションまで幅広く多様なレクリエーションの機会を提供する公園。特殊公園は、観光的魅力がある土地で特に集中する公園利用者の需要に応えるタイプである。海浜公園は、野生生物との共存を前提とし水質は水泳ができる水準とされている。⁶⁾ そして最後の山岳公園は、原則として自然性体験の場としての公園であるので、これを阻害するような施設の建設は制限される。また年間を通じ厳冬期など公園利用に危険が予想される時期には入山制限がなされる。現在供用中の公園をこのタイプで分類すると、自然公園が3公園、河川公園が6、多目的公園が3、特殊公園1、海浜公園2、山岳公園が1である。

表－２ 地区別の地域公園分布の分析

地区名	公園数	公園面積 ha	居住人口	開設水準 (㎡/人)
North Shore	3	5,107	155,043	329.0
Burrard Peninsula	2	1,063	557,100	15.9
Northeast Sector	2	833	140,345	59.2
South Shore	3	140	212,400	6.5
Surrey/White Rock	4	260	251,400	10.3
Fraser Valley	4	1,061	154,143	68.7
Maple Ridge	1	403	47,900	83.9
	16	8,848	1,628,331	54.33

3) 地域公園の配置について ; つぎに、地域公園の配置は大バンクーバー圏の主要都市から車で一時間で到達できるような位置に設定される方針になっている。⁶⁾ 地域

図－１ 大バンクーバー地域公園システム現況図 (1992)

公園は地域固有の自然景観の保全とレクリエーション利用との二つの目的を持つものであるから、その配置に際しては資源的な立地の問題が大きく影響することが当然であるが、その必要条件をふまえて更に分配論と言う観点からの検討がなされ現在の分布になっている。その基本はGVRDのSUB-AREAS構成、すなわち大バンクーバー圏を7つの地区に分割し、これを計画単位として分配配置していることである。この地区の大きさは平均300～400平方キロメートルであり、この地区内に前記の公園タイプの偏りが無いよう配置することになっていて、現在の公園分布を分析した結果は表-2である。

4. 地域公園の利用と管理運営に関する分析

1) 地域公園の施設整備状況；16の地域公園に整備されている公園施設は、レクリエーション活動施設、サービス施設、それに特別施設の3つに分類できる。レクリエーション活動施設としては、自然学習施設、歩道・ハイキングルート、自然解説施設、乗馬道、サイクリング道、水浴場、釣場、カヌー・カヤックコースがあり、この内、全ての地域公園に設置されている施設は、自然学習施設と歩道・ハイキングルートであり、ピクニック場と自然解説施設が殆どの公園に設置されている。サービス施設としては、キャンプ場、ピクニック場、バーベキュー台、園内食品売場、車椅子通路、水飲み場、バス停、トイレ、公園案内板、公衆電話などがあり、全公園に整備されているのはトイレで、次いで公衆電話と車椅子通路が多く、公園に整備されている。なお特定の公園だけにあってその公園を特徴づけている特別施設は、砂浜、魚卵卵所、歴史的建造物、展望塔、ビジターセンターである。

2) 地域公園の利用概況；地域公園の利用実態統計⁷⁾によると、利用者総数は1986年が180万人、1987年が235万人、1988年が272万人、1989年が312万人、1990年の339万人である。これは年平均17.5%の伸び率で、今世紀末には700万人の利用が見込まれている。前記した公園施設の整備状況からも想像されるように、公園来園者の29%は自然の中でのリラックスを目的として公園を利用している。その具体は、利用者の46%が歩道やハイキングルートを歩く目的で来園していることに示されているし、6つの公園タイプの内、多目的公園の来園者の59%が水浴や水辺遊びを目的としており、河川公園では来園目的の51%が釣である。⁷⁾ 1989年の利用統計を基に地域公園利用の詳細を見てみよう。最も利用者が多い公園は、CAPILANO RIVER公園で年間約110万人、つぎがBELCARRA公園で63万人、第3位がPACIFIC SPIRIT公園で31万人である。一公園の年間平均利用者は約25万人である。また2187人へのインタビューを通しての調査によると、公園利用者の居住地分布はGVRDを構成する自治体別の集計結果⁷⁾で、圏域居住者以外の観光客が

13%を占め、バンクーバー市民が15%、ウエスト・バンクーバーが10%、ラングレーが9%、デルタ、バーナービーが7%、リッチモンド6%とつづく。また同様の方法による公園の満足度調査の結果は、5段階評価で平均4.4と高い評価を得ている。満足度評価の高いベスト3公園は、4.7のPACIFIC SPIRIT、4.6のCAPILANO RIVER、LYNN HEADWATERSである。⁷⁾

3) GVRD地域公園局の組織構成について；GVRDの地域公園局の組織は、マネージャーと呼ばれる総括支配人を頂点としてこの下に秘書課があり、基幹の部署として行政管理官、計画調査官、公園管理運営官、利用サービス管理官が総括する4部がある。最も多くの職員を有しているのは公園管理運営官が所管する部署で、ここには維持改修の責任者の他、入場料徴収、財産管理を担当する専門家がいる。またこの部は中央、東部、西部のエリア事務所を所管していて、そこには公園管理専門官、解説専門家、エリア計画家、そして個別公園の担当管理者が所属している。行政管理官はいわば総務的な仕事を担当しており、計画調査官は各種の計画と基本的な調査を担当し、利用サービス管理官は、広報や公聴等の情報、特別イベント、ボランティア対応を担当している。これらの組織に属する全体の職員数は、1991年時点で常勤が約60名、この他に非常勤を70名程度雇用している。⁶⁾

4) 財源；これらの公園行政に要する経費の財源は、構成自治体負担金、州政府からの助成金（1979年までは総予算の1/3）、政府からの借入金、一般借入金、余剰地の売却、利用料収入並びに資産運用益、その他の寄付金等により賄われている。このうち構成自治体負担金は、21の自治体が一律に負担する基本負担金と人口割りにより算定される負担金から成っている。前者の基本負担金は1968年では25万ドルだったが1973年には35万ドルになった。また後者の住民一人当りの負担金は、1970年で1.5ドルだったのが1984年で2.4ドルに増額されている。⁶⁾ 両者を合計して計算すると構成自治体は住民一人当たり約60ドルの負担を地域公園にしているということになる。ちなみに警察は住民一人当たり112ドルということであるから、地域公園の位置が凡そ想像される。

5. 大バンクーバー地域公園システムの特性と評価

1) 地域公園の整備目標と計画の特性；大バンクーバー地域に整備されている地域公園システムは、大別して2つの整備目標を持っている。それらはローワーメインランド地域を含む一帯の自然地を保全することが一つ、もう一つは、圏域に居住する。150万市民の日帰り家族型レクリエーションエリアを提供することである。第1の目標のため、水質の保全に係わる自然水系の保護を具体的な課題としており、このためにフレーザー川流域に河川公園の整備を進め、その施設として4つの公園に紐

の孵卵所が設けられているのは興味深い。また本地域の自然資源としては河川の他に海浜が重要な位置を占めるが、これについては自然海岸線保全の観点から積極的に海浜公園の整備がなされている。その他、各地域公園が、自然林の保護、地質的に特徴を持つ土地、野生生物の棲息地の保護、さらには優れた眺望地点の保護の観点、すなわちランドスケープや自然それにレクリエーション利用の多様性から選定された土地の区域に開設されているのも、この第1の目標が明確に示されているからと判断される。第2の目標に関しては、地域公園の配置方針にまず読み取れる。それは前記のように公園の位置を主要都市から車で1時間に到達できる地点としていることで、16公園の内、8公園がバンクーバーのダウンタウンから20キロメートル圏内に分布し、その他の公園もほとんどが幹線の道路からのアクセスが良い位置にあるので、人口が集積した主要都市から1時間でいずれかの地域公園を利用できるという目標は達成されていると言える。このことによって公園のサービスに不平等感を与えないよう配慮されている。しかし、表2に示したように地域公園の整備現況は、一人当たり面積指標で54.33㎡の水準つまり人口1000人当たり5.4haの水準にあるものの、地区毎の公園開設水準は差が著しく、面積量の点からは地域不均衡があることを否定できない。本地域公園システムにおける公園計画の面積目標は、まず1966年に設定され、この時は1981年までの整備目標量を人口1000人当たり6.7haとした。しかし、これは後に改訂され、現在は、2001年値で8ha/1000人である。したがって、圏域人口150万人として目標整備面積は12,000haと計算される。これに対し現在の整備面積は8,848haであるから達成率は73.7%ということになる。つまり全体量としては比較的順調に目標水準に向っているが、今後は地域均衡策が求められよう。

そのような目標の下でなされる地域公園計画で公園用地選定の手順をみると、これには6つのステージがある。第1段階は、地域公園候補地の推薦規準である。推薦は最低3つ以上の自治体の支持を必要とし、これをもとにGVRDが検討することになる。第2段階では、特にユニークな土地の区域である場合を除いて60haという最低規模の基準と市街地から車で1時間に到達できる位置であるかのいわば定量的基準と地域固有の自然地であるか否かの定性的規準の尺度を当てた検討である。第3段階が当該候補地のレクリエーション利用性の評価で、その評定は土地の形状、接近性、可視性などである。そして第4段階がサブ・エリアを単位として見た場合の公園タイプの多様性である。これは一つのサブ・エリアの中には2つ以上の異なったタイプの公園を配置するという基準を基に検討される。第5は前記した公園整備量の基準（現在は8ha/1000人）、そして最後の第6段階では、

マニシパル・パークやプロビンス・パークとの役割分担をふまえた検討である。一方、地域公園計画立案では、コンセプトプラン、マスタープラン、サイトプランの3つのプランが検討される。コンセプトプランは、全体システムの中で公園タイプを決定し、土地の現況と目標の公園タイプとの関係から公園計画のテーマを決めること。マスタープランは植生、地形を調査し利用者を予測し公園の土地利用を考え用途ゾーン間の調整をすること。そしてサイトプランはコスト、デザインをつめることをねらいとしている。

2) 公園レクリエーションの広域行政の評価；地域公園システムが圏域に分布する固有の自然を保全する目的と、野外教育の場の整備を含むレクリエーション環境の整備を目的とした公園であることについては再三述べてきた。この分析で扱ったGVRDの地域公園システムは、そうした目的を果すために、マニシパル・パークシステムやプロビンス・パークシステムでは対応しにくい公園緑地施策を展開していると評価される。それは、広域から財源を一つに集めてまとまった資金として運用できる財政問題。本公園システムでのレクリエーション行動を日帰り型と限定するなら、将来のレクリエーション需要を予測するに相応しい地域的広がり範囲を計画対象としていること。フレーザー川を骨格とした地域生態系の単位での公園行政であるため、地域公園システムの主たる目的である自然の保全の「手段としての公園化」が容易なことの諸点である。都市化の進展に応じ対象とする地域の範囲が拡大し、かつ扱う空間の質が多様化するのが公園レクリエーション行政の今日的な特質であるが、その時とるべき公園レクリエーション政策のハードとソフトを総合して実行しているのが、この分析によって明らかになった。システムの創設以降、公園用地の確保、施設の整備、そしてレクリエーションプログラムの提供を16公園それぞれの成熟度に応じて不可逆並行に進めているその体制に注目したい。

6. 考察

以上バンクーバー都市圏の地域公園システムを対象に現在の状況を中心に2つの課題を設定して分析作業を進め、その評価を試みた。研究の目的として述べたように、日本にはないこの地域公園システムは、単に個別の公園への関心としてだけではなく、個別の公園の効果が相乗して顕在化する全体の体系と表現される「システム」として注目されなければならない。日本の公園緑地システムの計画は、その範を19世紀のパークシステムや今世紀初頭のアメリカの近隣レクリエーション計画論とすると、道路網を中心とした交通体系の発達、都市域の限らない拡大をもたらしている。そのような時、市街地を中心としたみかけの都市地域の公園緑地

計画だけでは不十分である。近年の我国の公園施策にも顕著に表れているように、国民の公園に対するニーズと期待は実に多様である。また都市化社会を迎えたことによって、いわゆる都市地域以外の国土の方々に都市を意識した地域活性化施策が、決して少なくない公園への期待を持って発想されている。生活環境保全林の整備事業や農業公園の整備事業は、その一例である。少なくとも都市公園と自然公園という棲み分けをする時代ではない。かつまた人間の利用を考えない緑地保全が簡単に容認される時代でもない。公園化することを通じて緑地保全の意味が解るような公園計画の必要性を感じるとき、シティ・パークシステムとプロビンシャル・パークシステムとの中間に位置する地域公園システムの意義は大である。都市公園行政に限ってみても都道府県立都市公園と市町村立都市公園の違いがその本質として見えなくなっているように思う。また地域制公園と営造物公園との違いはあるにせよ、それらが公園を整備している地域にあまり隔たりが無くなった都道府県立自然公園と都道府県立都市公園との融合再編をねらったシステム構築の道筋としてもここで分析した地域公園システムは意味を持つ。本論はわが国の公園緑地計画と政策が抱える課題に対して重要な示唆を与えるであろう地域公園システム研究の端緒である。

参考文献および脚注

- 1) 例えば、養茂寿太郎 (1992): 東京グリーンベルトの夢と片鱗・東京緑地計画1939, 石田頼房編『未完
- 2) 養茂寿太郎 (1992): 都市計画と公園緑地のマスタープラン, 公園緑地52巻5号 pp. 6-10
- 3) 田代順孝 (1992): アメリカのリージョナルパークの管理運営におけるパークディストリクト (公園区) の役割, 造園雑誌55巻5号 253-258
- 4) トロントのメトロポリタンパークシステムは, 1955年の設立で総面積3,955ha, 43の公園を有する
- 5) 養茂寿太郎 (1992): バンクーバー市公園管理条例の構成に関する考察, 日本造園学会関東支部大会研究・報告論文集
- 6) GVRD (1985): Greater Vancouver Regional Parks: System Plan and Policies, 88pages
- 7) GVRD (1990): Greater Vancouver Regional District Parks 1989 Use Estimates, 50pages
- 8) GVRD (1991): GVRD's Regional Park Outdoor Recreation System, A Review of Major Parks and Outdoor Recreation Issues, 30 pages
- 9) GVRD (1991): GVRD's Regional Park Outdoor Recreation System, Proposed Action Plan on Needs and Issues, 31 pages
- 10) GVRD Parks Department (1992): Draft Summary Report on Public Response to GVRD Parks' Discussion Paper, 34 pages
- 11) GVRD Parks Department (1992): First Trimester Park Use Report, 22 pages

Summary : In this paper, the object of study area is selected to Greater Vancouver Regional District in CANADA by way of being fine modern regional park system. The first purpose of this study is to clear the physical conditions of that regional park system, and second is analysis on the use and administration system. For that purpose, the one of important reserch points are decided on the size, character, location of each regional parks, and these park planning system. And second aspects are setted on the existing condition of park administration include the topic of park user. The result of this study is followings.

- 1) The regional park system is very unique system for the large urban area, which have connective roles relation to the municipal park system and provincial park system.
- 2) The idea of the regional park system will be useful for the reorganization of Japanes park planning system, of course contain Japanes typical two park systems those are natural park system and city park system.